



第39回日本神経科学大会

The 39th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society

ランチョンセミナー LS-6

2016年7月21日(木) 12:00-13:00 第C会場 (5F 502)

リハビリテーションとヘルスケア応用 に向けたBMI外骨格ロボット制御



座長

正木 信夫 (ATR-Promotions 脳活動イメージングセンタ)

演者

森本 淳 (ATR脳情報研究所
ブレインロボットインターフェース研究室)

高齢化社会を迎える日本・欧米を含む先進諸国において、運動アシストを行う外骨格ロボットの開発は重要な課題であり事実各国でその開発が盛んに進められています。これまでの運動アシストロボットの開発においては、そのハードウェア開発に主眼が置かれており、ハードウェアの潜在能力を生かし切るソフトウェアの開発はあまり注目されていませんでした。

ここでは、独自開発の外骨格ロボットハードウェアとその特性を考慮した機械学習アルゴリズムに基づく運動アシストのための動作生成ソフトウェア、および脳活動に応じてロボットを駆動するブレイン・マシン・インタフェース(BMI)の技術について概説し、リハビリテーションやヘルスケアへの応用に向けた展望について紹介します。

ランチョンセミナーのチケットは 7月21日(木) 8時より
パシフィコ横浜 会議センター1階
「ランチョンセミナーチケット配布デスク」にて配布

ATR-Promotions
BAIC

【共催】第39回日本神経科学大会 / 株式会社ATR-Promotions

The 39th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society / ATR-Promotions Inc